

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自己肯定感の向上と集団づくりとコミュニケーション力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同授業研の実施 ・夏季小中合同研修会の実施 ・南中ブロックスタンダードの実践検証と、目指す子ども像の共通理解 ・人権学習における共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討 ・連携通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施。 ・夏季小中合同研修会の実施 ・南中ブロックスタンダードの定着に向けての検証 ・人権学習における共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・英語教育の小中・小小交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討 ・連携通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施。 ・夏季小中合同研修会の実施 ・自己肯定感向上につながる南中ブロックスタンダードのさらなる検討、検証 ・人権学習における共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・英語教育の小中・小小交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討、見直し ・連携通信の発行
確かな学力の育成	自ら学び、自ら考え、判断、行動し、よりよく問題を解決する力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○推進計画の作成 ○全職員の共通理解(研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成) ○3研究部会での校内研究授業・授業公開・研修会の実施 ○わかる・楽しい・居場所がある授業・環境づくり(南中スタンダードの実践・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり) ○基礎学力の充実(習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等) ○思考力・判断力・表現力の育成(問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等) ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み(いきいきスクール・NET) ○読書活動の充実(朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○初年度の取組みの検証と計画の見直し ○全職員の共通理解(研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成) ○3研究部会での校内研究授業・研修会の実施 ○わかる・楽しい・居場所がある授業・環境づくり(南中スタンダードの検証・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり) ○基礎学力の充実(習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等) ○思考力・判断力・表現力の育成(問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等) ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み(いきいきスクール・NET) ○読書活動の充実(朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年間の取組みの検証と計画の見直し ○全職員の共通理解(研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成) ○3研究部会での校内研究授業・研修会の実施 ○自己肯定感向上につながる授業・環境づくり(南中スタンダードのさらなる検証、定着・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり) ○基礎学力の充実(習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等) ○思考力・判断力・表現力の育成(問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等) ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み(いきいきスクール・NET) ○読書活動の充実(朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな人間性を育む</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">な心を育てる 自己肯定感・自己有用感を高め、友だちと認め合える豊かな</p>	<p>○つながりを大切にした授業づくり (子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師) ○系統性のある人権学習の取り組みの推進 (ちがいやもちあじを認め合い豊かさに) ○6年間の積み上げを大切にした取り組み (人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ) ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳教科化へ向けての研究 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携</p>	<p>○つながりを大切にした授業づくり (子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師) ○系統性のある人権学習の取り組みの推進 (ちがいやもちあじを認め合い豊かさに) ○6年間の積み上げを大切にした取り組み (人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ) ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳の時間を要とした道徳教育の研究・推進 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携</p>	<p>○つながりを大切にした授業づくり (子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師) ○系統性のある人権学習の取り組みの推進 (ちがいやもちあじを認め合い豊かさに) ○6年間の積み上げを大切にした取り組み (人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ) ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳の時間を要とし、教育活動全体を通じての道徳教育の推進 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健康・体力の増進</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">心身ともに健康で、たくましく生きる力を育てる</p>	<p>○なわとび朝会 (ペア学級) ○マラソン大会、ウィンタートレーニング (持久走) ○立命館大学と連携し、授業において短時間運動プログラムの導入。全学年体力テストの実施。 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取り組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの提案 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成 (養護教諭、栄養教諭との連携)</p>	<p>○なわとび朝会 (ペア学級) ○マラソン大会、ウィンタートレーニング (持久走) ○立命館大学と連携した短時間運動プログラムを取り入れた成果を体力テストの結果を基に考察した上で必要な運動の積極的な実施 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取り組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの考察 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成 (養護教諭、栄養教諭との連携)</p>	<p>○なわとび朝会 (ペア学級) ○マラソン大会、ウィンタートレーニング (持久走) ○前年度考察した児童の強み、課題を基に必要な短時間運動プログラムを行い、体力テストの結果の考察。 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取り組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの考察 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成 (養護教諭、栄養教諭との連携)</p>
<p>支援教育の充実</p>				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

やや課題が残る結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
「図書館への行き方の説明として適切なものを選択する」設問
- ・ もっとも正答率の低かった設問
「主語と述語のつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す」設問
- ・ もっとも無解答率の高かった設問
「文の中で漢字を使う(せつ極的)」設問
- ・ もっとも無解答率の低かった設問
「図書館への行き方の説明として適切なものを選択する」設問、他3問

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

やや課題が残る結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②記述式

やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
「話し合いの様子の一部における発言の意図として、適切なものを選択する」設問
- ・ もっとも正答率の低かった設問
「文章の途中で以前メモしたことを取り入れて詳しく書く」設問
- ・ もっとも無解答率の高かった設問
「伝記を読んで、最も心がひかれた一文とその理由の文章の途中に入る内容を書く」設問
- ・ もっとも無解答率の低かった設問
「話し合いの様子の一部における発言の意図として、適切なものを選択する」設問、他2問

分析

- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域は、国語A国語Bともに「概ね良好な結果」であった。
- ・ 無解答率も「概ね良好な結果」ではあったが、全国平均と比較すると高い結果であった。
- ・ 国語Aの「言語事項」領域の「やや課題が残る結果」は、テスト後半の漢字問題の正答率が低いことが大きな要因である。選択問題であったにもかかわらず無解答率が高い。前半の問題に時間を取られ、後半の漢字問題に十分な時間をかけられなかったと考えられる。児童質問紙においても「解答時間が十分でなかった」と回答する児童の割合が多かった。
- ・ 主語と述語の関係や適切に敬語を使うことなどの課題については、日常の中でも意識してふれたり使ったりする指導を行い、正しく身につけられるようにしていく。
- ・ 「短答式」や「記述式」の問題形式では、条件を満たして書くことに課題が見られた。
- ・ 国語Bの「読むこと」領域が「やや課題が残る結果」となったが、国語Aの「読むこと」領域は平均正答率が全国平均を上回っていることから、「読むこと」の課題ではなく、「記述式」の設問での「書くこと」の課題が結果に影響したと考えられる。国語科のみならず様々な授業の中で、「書く力」の向上を目指した取組みを今後も継続していく必要がある。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

やや課題が残る結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
「面積がそろっている2つのシートの混み具合について正しいものを選ぶ」設問
- ・ もっとも正答率の低かった設問
「円周率を求める式として正しいものを選ぶ」設問
- ・ もっとも無解答率の高かった設問
「示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ」設問
- ・ もっとも無解答率の低かった設問
「面積がそろっている2つのシートの混み具合について正しいものを選ぶ」設問、他1問

算数B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

やや課題が残る結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
「全体で使える時間の中で、『ルールの説明』に使える時間は何分かを書く」設問
- ・ もっとも正答率の低かった設問
「2枚のメモがそれぞれ、グラフのどのようなことに着目して書かれているのかを書く」設問
- ・ もっとも無解答率の高かった設問
「2枚のメモがそれぞれ、グラフのどのようなことに着目して書かれているのかを書く」設問
- ・ もっとも無解答率の低かった設問
「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ」設問

分析

- ・ 算数A、算数Bともに「数と計算」領域で「概ね良好な結果」となったのは、これまで基礎基本の定着に向けて取り組んできた成果といえる。
- ・ また、「短答式」「記述式」の問題形式でも「概ね良好な結果」であったのは、全学年で問題解決型学習の授業を行い、児童が主体的に課題に向き合ってきた成果といえる。今後も、児童が主体的に取り組み、考えを説明したり理由を考えたりする機会を保障すると共に、思考力・判断力・表現力を育むことができる授業づくりを行っていく。
- ・ 無解答率は「概ね良好な結果」ではあったが、全国平均と比較すると高い結果であった。算数Aでは、テスト後半になるほど無解答率が高くなっているため、国語同様、時間が十分ではなかったことが考えられる。
- ・ 今回のテストで課題のあった「量と測定」や「図形」領域の設問内容である、三角形の性質や分度器、円周率の学習などでは、具体物の提示や視覚教材の活用を行い、作業的・体験的な活動を通して理解を深め定着を図っていく必要がある。

(領域ごと)

- | | |
|--------|---------------|
| ①物質 | 概ね良好な結果であった |
| ②エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ③生命 | やや課題が残る結果であった |
| ④地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
「海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果をもとに判断した内容を選ぶ」設問
- ・もっとも正答率の低かった設問
「実験結果から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、そのわけを書く」設問
- ・もっとも無解答率の高かった設問
「腕を曲げることができる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く」設問
- ・もっとも無解答率の低かった設問
全設問16問中、13問が無解答率0.0%であった。

分析

- ・無解答率が低く、「解答時間は十分だった」と答えた児童も多かった。
- ・「観察や実験の技能」観点の設問での正答率が高く、児童質問紙での「観察や実験を行うことは好きですか」の質問でも肯定的な回答をする児童の割合が高かった。児童が実際に観察したり実験したりする機会を大切に、体験的な活動から理解を深めていった成果と考えられる。
- ・「生命」領域、「短答式」問題形式の結果は、「腕を曲げることができる骨と骨のつなぎ目を表す言葉 ⇒ 関節」の設問での解答率の低さが要因である。漢字の誤りも多く、学習場面で正しく理解させることが必要である。
- ・「物を水に溶かしても全体の重さは変わらない」ことを問われた設問での正答率が低かった。「物が水に溶ける」ということは視覚で捉えることができないため、重さや体積をはかる体験的な活動を通して、捉えさせていかなければならない。
- ・「わけを書く」設問では正答率が低かった。理科においても「書くこと」への苦手感が伺えるが、一方で児童質問紙の回答結果から、理科の授業への興味関心意欲の高さがわかる。今後も、自分で予想し、友だちと予想を共有したり結果を見通したりしながら、観察や実験の計画を立て、実験結果からわかったことを考察し自分の言葉で書くことができるような、児童が主体的に活動できる授業づくりに取り組んでいく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・H19年度の調査開始以来、昨年度初めて全国平均を下回る結果となったが、今年度も全国平均を下回る結果となった。
- ・無解答率も全国平均より高い結果となった。
- ・特に、「記述式」の問題形式での正答率の低さと無解答率の高さが数年続いている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・全体的な傾向として、徐々に学力低位層が増加している。
- ・低位層の推移とエンパワー層の推移は似ており、エンパワー層の底上げが学力の底上げにつながると考えられる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

南中ブロックスタンダードを基本とした授業のユニバーサルデザイン化の実践

- ・落ち着いて学習に取り組める環境づくりのために、教室の環境整備を行い、授業の準備をきちんと整えさせる。
- ・チャイム着席や授業はじめとおわりのあいさつなどの授業規律を大切にす。
- ・どの子も分かる、学び合いのある授業づくりのために、課題・めあて・学習の見通し・内容の明確さ、学びの振り返りなど学習時間の構造化を推進する。
- ・学習の協働化・共有化を図るために、ペアやグループ活動など、友だちと話し合う時間をもち、互いの意見を交流するなかで考えが深まるようにしていく。
- ・視覚教材や具体物を活用し、体験的に学べる授業づくりを行う。

1～6年までの系統立てた学習活動の推進

- ・教職員間での取組みの共通理解を図り、校内研修での授業力の向上を目指していく。

児童が安心して学習できる居場所づくり

- ・学力向上に向けて、普段の人間関係づくりや集団づくりを大切にしていく（みずおの「み」の「みんな仲良く」）。
- ・一人ひとりを大切にする人権教育を推進していく。

基礎学力の充実

- ・習熟度別学習や少人数分割指導を行うと共に、学習サポーター等との連携や、授業中の人的支援の有効な活用を進め、個別に支援できる体制を継続して行っていく。
- ・基礎基本の反復練習を重ねるなど、習熟できずに終わってしまう児童への細やかな対応や取組みを行う。
- ・「宿題がんばり週間」などを活用し、家庭学習の確認を続け定着を図ると共に家庭との連携も強めていく。
- ・毎学期の「学び方をふりかえろう（自己評価）」で、自分の学習への向き合い方を見つめなおさせ、学ぶ意欲を高めさせ、家庭へも個人懇談で啓発させる。

問題解決型の学習

- ・主体的に課題に取り組み、思考力・判断力・表現力が育めるような授業をつくっていく。
- ・考えをつなぎ、深めるために、ペアやグループでの交流、全体での練り上げを大切にしていく。

ノート指導

- ・学んだ成果が見られる丁寧なノートづくりにつながる指導を行う。
- ・授業の最後の振り返りを自分のことばでまとめることで、学習の自己評価を行うとともに、「書くこと」にもつなげていけるようにする。

読書活動の充実

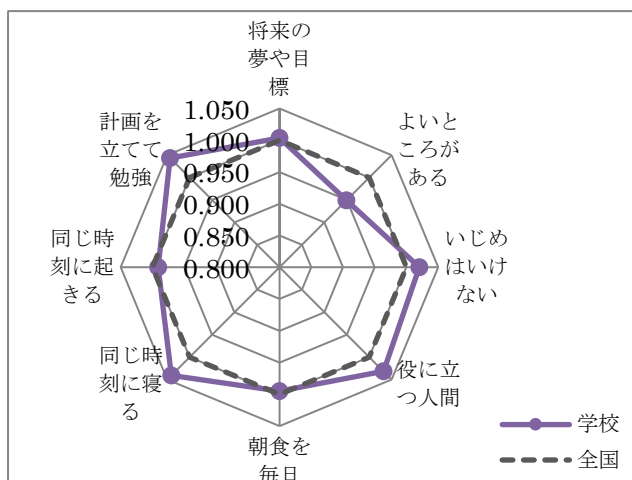
- ・「読書が好き」「楽しい」と実感することで「読むこと」への意欲を高めていきたい。そのために「朝の読書タイム」や「読み聞かせ」「絵本のひろば」などの取組みを継続していく。

学習意欲の向上

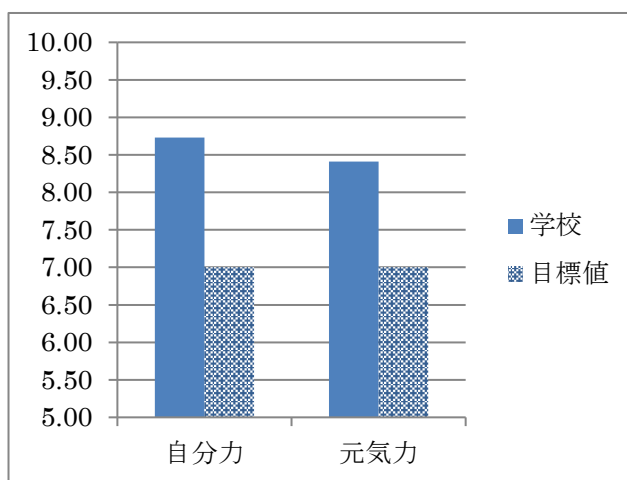
- ・無解答率を減らしていくために、何事にも前向きに取り組む、間違えることをおそれず挑戦してみる、諦めずに問題と向き合うなどを常日頃から声をかけ続ける。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは8項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『自分力』と元気力のみとなっています。

分析

・「自分力」「元気力」ともに設定目標値の「7.00」を上回っている。

ゆめ力について 「将来の夢や目標をもっている」は全国平均をわずかに上回っていた。

自分力について 「役に立つ人間になりたい」と将来的への希望はもっているが、今の自分には「よいところがない」と思っている傾向が伺える。日々の中で自己肯定感を高め、自己有用感を感じられる取り組みを行い、教師の声かけなどの指導・支援のあり方を見直していかなければならない。

元気力について 「毎日同じ時刻に寝る」が全国平均を上回っているのに対し、「毎日同じ時刻に起きる」は下回っている。「朝食を毎日食べる」も下回っているため、朝の生活習慣等、規則正しい生活が体力だけでなく、学力の向上にもつながるといふこと家庭への発信をさらに行っていく必要がある。

学び力について 「自分で計画を立てて勉強する」が全国平均を上回った。言われたことや出された宿題だけでなく、自主学習に取り組むことや目標をもって進んで勉強することの大切さを、今後も伝えていきたい。

取組み

いろいろな人とつながり、自分も他者も尊重できる子どもを育て、規律を守り、互いの個性を高め合う集団づくりをめざすため以下の取組みを行っていく。

・集団づくりや人間関係づくりを含んだ人権教育の視点を大切に授業づくりを進め、子ども同士のつながりを深めていけるようにする。

(お互いの良さや違いを認め合える仲間関係づくり、一人ひとりが自信を持てる場づくり、信頼し合える学級づくり等)

・系統性のある人権学習の研究を行い、出会いや参加・体験を大切に実感のある人権学習を進めていくなかで、ちがいやもちあじを認め合いそれを豊かさにするような人権感覚を育てていく。

・人権週間の取組み、各学年に応じた平和教育や「平和集会」での交流、ペア学級での異学年交流、MJF(水尾児童会フェスティバル)など、6年間の積み上げを大切に取組みを今後も継続していく。

・自己肯定感を高め合えるような、子ども同士のかかわりや自己有用感を感じられるような活動を意識的・計画的に取り入れていく。

・生活アンケートを実施し、集団づくりに活用する。(年3回、毎学期)

・規範意識を高めるために、きまりの徹底や長期休暇前の生活指導等を行い、規律ある学校づくりを進める。

・児童理解を深めるために、家庭との日常的な連携を大切にするとともに、地域や保幼小中との連携も図っていく。

・道徳教育の充実を図るための教材研究・授業研究を行っていく。

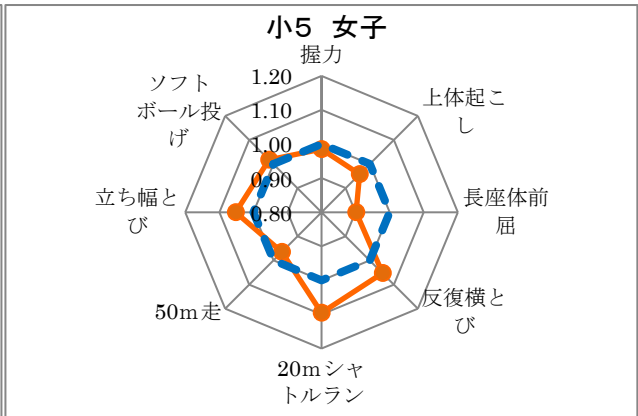
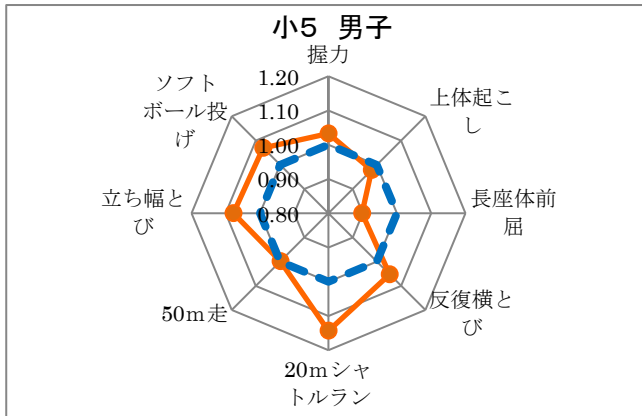
・学力向上、人権教育、支援教育の校内研修に加え、体力向上、情報・図書教育などさまざまな研修を実施し、教職員の意識向上を図る。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

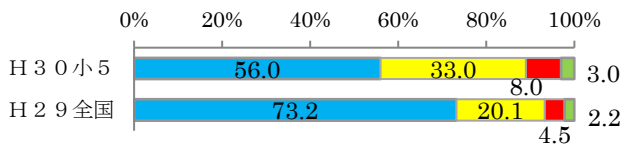
男子 (小5)

○●体力●○

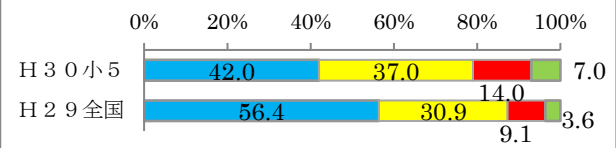
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・小学5年男子では、握力、反復横とび、ソフトボール投げ、立ち幅とびで全国平均を上回り、20mシャトルランについては、全国平均を大きく上回っている。上体起こし、50m走は全国平均をやや下回っており、長座体前屈では、全国平均を大きく下回る結果となった。
- ・小学5年女子では、20mシャトルラン、反復横とび、立ち幅とびで全国平均を上回った。ソフトボール投げも全国平均をやや上回っている。上体起こし、長座体前屈、50m走では、全国平均を下回り、握力もやや下回っている。
- ・男女ともに反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびは全国平均を上回り、年々数値も伸びている。
- ・上体起こし、長座体前屈、50m走は、この3年間の経年比較でもあまり変化が見られず、全国平均を下回っている。
- ・「運動が好きですか」、という質問に好きと答えた割合は、男子が高い数値を維持しているのに対して、女子では減少傾向が見られる。

取組み

- ・立命館大学スポーツ健康科学部指導のもと、毎授業の準備運動で短時間プログラム（ジャンプ、柔軟など立ち幅跳びや長座体前屈などにつながる動き）を取り入れる。
- ・全学年において、新体力テストの8種目を年に一回測定する。
- ・「茨木っ子運動」を全学年で実施し継続していくことで、体幹を鍛えるとともに、姿勢保持にもつなげていく。その上で、課題である筋力、瞬発力、柔軟性の向上に努めていく。
- ・体力アップタイム（体育の用具を使った休み時間の活動）やなわとび朝会、ウィンタートレーニングなど、全校での取組みも継続して行っていく。
- ・教員の授業力向上のため、校内自主研修会を積極的に実施していく。（茨木っ子運動、短時間プログラム、着衣泳等）
- ・年間カリキュラム、体育のスタンダードを活用し、系統性のある授業ができるよう教職員間で共通理解を図る。
- ・体育の授業の中で、休み時間につながる運動遊びを行い、休み時間に運動場に出て、体を動かすことができるように促していく。
- ・体育用具を整備し、より使いやすく、準備や片付けが円滑にできるようにし、授業中の運動量の確保や充実した学習へとつなげていく。
- ・握力、投力をつけることのできる取組みを検討する。
- ・栄養教諭や養護教諭とも連携し、食生活や健康を維持することの大切さを伝えていく。